

## 特定看護師による PICC 挿入の現状

済生会松阪総合病院 看護部<sup>(1)</sup>、放射線科<sup>(2)</sup>、NST<sup>(3)</sup>

浅井伸輔<sup>(1)</sup>、松井美貴<sup>(1)</sup>、杉野雄一<sup>(2)</sup>、中井佐奈<sup>(3)</sup>、松本由紀<sup>(3)</sup>、福家洋之<sup>(3)</sup>、清水敦哉<sup>(3)</sup>

### 【はじめに】

医療の多様化に伴いこれまで以上に多職種連携によるチーム医療の重要性が認識されている。また、医師の時間外労働に対する上制限が始まる 2024 年 4 月が迫る中、各医療関係職種における業務範囲の見直し、タスクシフトが推進されている。タスクシフトとして期待される一つに看護師による特定行為があげられる。当院には 2 名の特定看護師が在籍しており、2019 年 11 月の当研究会にて看護師による胃瘻交換の現状を報告した。その後も当院では看護師による積極的なタスクシフトを進めており、今回、特定看護師の活動、特に PICC（末梢挿入型中心静脈カテーテル）挿入の現状について報告する。

### 【活動内容】

7 区分 16 行為の特定行為研修を修了し、そのなかで現在、気管チューブの位置調整、CVC 抜去、血ガス採取、動脈ライン確保、人工呼吸器設定変更、PICC 挿入などを実践している。

PICC 挿入はその安全性が考慮され、CVC に代わり症例数が増加しており、当院でも年間約 400 例が施行されている。特定看護師による挿入例は 15 ヶ月で約 150 例であり増加傾向となっている。症例数の増加に伴い、穿刺回数の減少や挿入時間の短縮が達成できている。一方でこれまで 10 例の挿入困難例を経験したが、合併症は認めなかった。PICC が不要になれば抜去も行い、入院中のカテーテルトラブルに対しても適宜対応している。また、院内の PICC セミナーには指導的立場で参加している。

### 【まとめ】

特定看護師による PICC 挿入は安全に施行が可能であり、タスクシフトを行うことでより早期に適切な輸液療法の施行が可能となるとおもわれる。PICC 挿入の需要は高まると思われる、後継者の育成が今後の課題である。